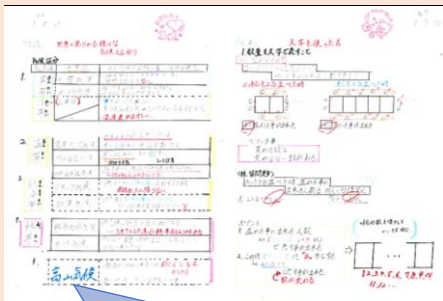


2. 学習支援部

(1) 基礎基本の定着



サマースクール

- ・少人数による指導
- ・「わかった」「できた」→学習意欲の向上



家庭学習の充実

- ・1日1ページ以上
- ・まとめ方を工夫して
- ・家庭学習充実デー、ノーマディアデーの設定



eライブラリアドバンスの活用

- ・自分のペースで
- ・自分の苦手を克服
- ・基礎基本の定着

(2) 学習環境の整備

板書の工夫

- ・学習課題の提示
- ・白と黄色を基調に



ICT機器の活用

- ・タブレットを使ったペア活動

(3) 多様な体験を通じた学び

ゲストティーチャーから学ぶ



地域の方から学ぶ
体験講座

さくまひでき氏を題材
とした道徳授業・講演会

若葉学級
学校ファームでの作業



3. 調査分析部

成果と課題

(1) 生徒意識調査より (4段階)

質問	H28	H29	H30
① あなたは授業に真剣に取り組んでいる。	33	34	35
② あなたは授業に満足感や達成感を持つことができる。	30	31	32
③ 教師はわかりやすく楽しい授業になるよう、工夫している。	33	34	35
④ 教師は、個に応じた指導を工夫している。	31	34	34
⑤ あなたは、授業がわかりやすく、楽しい。	30	31	32

指導者を招いての研究授業を数多く取り組んだことにより、教師の授業力が向上し、生徒の授業の対する意欲の高まりが見られた。

(2) 家庭学習の時間より

学習時間	H28	H29	H30
2時間以上	35.6%	34.5%	41.1%
1時間未満	31.8%	31.3%	29.9%

学習時間「2時間以上」と回答した生徒の割合が増えた。しかしながら継続して「目的意識」を持たせていくことが求められる。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査より

平成30年度および令和元年度の各教科の伸びに着目すると、全体的に伸びている。特に、3年数学の経年変化は、埼玉県の伸び「2」に対して、東中の伸びは「3」であった。

また、伸びた生徒の割合をみると、全体として5割以上の生徒が伸びているが、特に中学3年生の英語については85.9%と、大きく伸びた。

御指導いただいた先生方

埼玉大学教育学部附属中学校 教諭	齊藤 耕太郎	様
埼玉大学教育学部附属中学校 教諭	高橋 太一	様
埼玉大学教育学部附属中学校 教諭	三浦 直行	様
埼玉大学教育学部附属中学校 教諭	山本 孔紀	様
東部教育事務所教育支援担当指導主事	木村 優二	様
春日部市立粕壁小学校 教頭	岩見 奈津枝	様
(前東部教育事務所教育支援担当指導主事)		
東部教育事務所教育支援担当指導主事	山本 直人	様
東部教育事務所学力向上推進担当指導主事	竹内 徳望	様
久喜市立久喜中学校 校長	堀内 俊吾	様
熊谷市立江南南小学校 校長	森田 昌孝	様
県立熊谷特別支援学校 教諭	金澤 範明	様
県立行田特別支援学校 教諭	宇野 弓子	様
羽生市立西中学校 教諭	小島 恵美子	様
羽生市教育委員会 教育長	秋本 文子	様
羽生市教育委員会学校教育部長	川島 規行	様
羽生市教育委員会学校教育課長	矢野 渡	様
羽生市教育委員会学校教育課 指導主事	蓮見 典昭	様
羽生市教育委員会学校教育課 指導主事	柿沼 宏充	様
羽生市教育委員会学校教育課 指導主事	橋本 良典	様
羽生市教育委員会生涯学習課 指導主事	ダイヤモンド 真砂子	様

研究に携わった職員

(令和元年度) 校長 栗原 利夫 教頭 山水 明											
小池健太郎	山中 弘樹	渡邊マコト	前川 洋輔	安達 由紀	猪狩 式子	橋本 匡人					
岡部 桂汰	片岡 洋一	宮路 裕子	齋藤 安彦	島村 未来	奥木 智仁	大久保衆歩					
柳橋 綾香	稲垣 直人	松川つかさ	高瀬 康平	林 夕香理	鈴木 桃子	浅岡 勇輝					
奈良原 忠	宝月 温美	中村美由希	佐藤 均	河本 圭	永井 翔	渡邊 敦仁					
皆川 麻子	篠崎 智保										
(平成30年度) 教頭 福田 和己											
原 登志雄	中里 和博	山田 大輔	佐藤 瞬	石谷 恵太	田口 大樹						

平成30年度・令和元年度
羽生市教育委員会 羽生市教育研究会 委嘱
研究主題

「逞しく生き抜く力」を基盤とした学力向上
～より高い「判断力」を身に付け、「深い学び」へ～

研究紀要



昇る陽の如く

昇る陽の如く 大志を抱け
昇る陽の如く 明るく照らせ
昇る陽の如く たくましく
昇る陽の如く 命を輝かせ
そして生きよ 昇る陽の如く

令和元年11月28日(木)

羽生市立東中学校

あいさつ

羽生市教育委員会 教育長 秋本 文子

羽生市立東中学校では、平成30・令和元年度の2ヶ年にわたり、羽生市教育委員会・羽生市教育研究会委嘱として、「全教科及び道徳」の指導に関する研究委嘱を受け、研究主題を【「逞しく生き抜く力」を基盤とした学力向上】と設定して、研究と実践を着実に積み重ねていただきました。この度、その研究成果を発表していただくことは、本市の教育推進にとって、意義深いものと考えております。

東中学校では、多様で、変化の激しい社会を生き抜くため、生徒達に「逞しさ」を身に付けさせることを研究の中心に位置付けました。また、人間としての生き方を深めるための道徳教育の充実を図り、生徒一人一人の学習意欲を高め、さらに深い学びを体感させることをねらいとして研究を進めていただきました。特に「より高い『道徳的判断力』が人間を育み、より高い『学びの判断力』が思考力・判断力・表現力全体を押し上げるだろう」という仮説を立て、「判断力」の育成に力を入れたことは特筆すべきことであると考えます。

その「判断力」を育成するために、基盤としての道徳教育の充実はもちろんのこと、各教科における指導法の工夫・改善に関する手立て、そして家庭や地域も巻き込みながら学力向上を目指していただきました。「判断力」を意識した全教育活動の推進は、生徒の「確かな学力の向上」に効果的であったと確信しております。

本日の発表に期待しておりますとともに、各校におかれましては、本研究の成果と課題を参考にし、自校の指導改善に生かしていただきますようお願いいたします。

結びに、栗原利夫校長をはじめとする先生方の熱意と努力に深く敬意を表すとともに、研究推進にあたり御指導賜りました関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

羽生市立東中学校長 栗原 利夫

本校は、平成30・令和元年度の2ヶ年にわたり、羽生市教育委員会並びに羽生市教育研究会から委嘱を受け、研究主題『「逞しく生き抜く力」を基盤とした学力向上』、副題「より高い『判断力』を身に付け、「深い学びへ」〜とし、研究に取り組んでまいりました。そして、研究仮説を『(1)「逞しく生き抜く力」が身に付けば、目的意識が定まり、困難に耐える力が身に付き、学習意欲の向上につながる。(2)より高い「道徳的判断力」が人間形成を育み、より高い「学びの判断」が思考力・判断力・表現力を押し上げる。』としました。

つまり、道徳教育を核にし、「生き方」が身に付けば、目的意識が定まり学習意欲の向上につながる。また、授業については、方法論として「判断力」をキーワードとすることで、「主体的、対話的で深い学び」につなげ、「授業力」を向上させることができる、と考えました。とにかく「授業」の実践から「授業力向上」を第一に、研究を積み重ねてまいりました。

まだまだ研究半ばではございますが、本日の研究発表を通して、御参会の皆様、忌憚のない御意見・御指導を賜れば幸いです。

結びに、本研究の推進にあたり、御指導いただきました、埼玉大学教育学部附属中学校、東部教育事務所、羽生市教育委員会、羽生市教育研究会及び関係の皆様方に心から感謝申し上げます、あいさつといたします。

I 研究計画の概要

1 仮説

- (1) 「逞しく生き抜く力」が身に付けば、目的意識が定まり、困難に耐える力が身に付き、学習意欲の向上につながる。
- (2) より高い「道徳的判断力」が人間性を育み、より高い「学びの判断力」が思考力・判断力・表現力全体を押し上げる。

2 研究教科・領域等

全教科及び道徳

3 研究アプローチ 三つの柱

- (1) 考え、議論するための三つの手立て
 - ①心の振り子カード ②心情直線 ③価値の点数化
- (2) 「より高い判断力」を身に付けるための「学習の手立て」
- (3) 「判断力」を意識した全教育活動

II 各部の具体的な取組

1. 授業研究部 「より高い判断力」を身に付けるための各教科の「学習の手立て」

教科等	手立て
国語	・根拠を持って答えを導き出せるような発問の工夫。
社会	・判断力を高めるために「問い」を工夫する。
数学	・数学科では「判断力」は「適切な解法を導く力」であるとする。授業では、複雑な計算の問題や、文章題を扱う中で多様な考えを意図的に取り上げることで、様々な考えがある中で最も適当な解法を考える時間をつくる。また、解決までに至った過程を大切に、どのような考え方が解決に役立ったか考えさせる。
理科	・判断力を高めるために、班ごとの話し合い活動を増やす。 ・意見を交換して互いの考えを高め合う。
音楽	・考えを発表する際に、複数のヒント・選択肢を与える。そのうえで、「〜が適切だと判断したからです。」と発表できるようにする。
美術	・1つの作品に対するアイデアスケッチを複数考えさせ、より良いものを判断し選択して制作させる。 ・自分のアイデアを広げ、表現力豊かな作品を制作する過程は、何が必要で何がそうでないかを判断する取捨選択の積み重ねであることを気づかせる指導を行う。
保健体育	①ホワイトボード等に毎時間の流れを記入する。 ②技能として成功はしなかったが、いい判断をした場面に「ナイス判断！」を提示する。
技術	自分で考え、主体的に取り組むため、学習課題を意識し、判断を伴い製作できる。
家庭	家庭科では自立と共生を目指し生活の中の問題に向き合い、課題を見つけ、より正しい判断で課題を解決する力を身に付けさせたい。その手立てとして学校生活、家庭生活から実際に活かせるアイデアを見つけグループ活動等を通し様々な視点で考えさせる。そして他者の意見からより良いものを見つける活動をする。
英語	「基礎基本の定着」と「判断力を養う」ために、以下のことに取り組む。 ・学習形態の工夫（ペア・グループ活動による言語活動） ・実践的言語使用場面の設定 ・ALTとの効果的なTT授業について重点的に取り組む。

道徳 ・人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、さまざまな状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか考え、意見を交流する。

心情メーターを活用して

意見交流の場面の設定

ホワイトボードの活用

「問い」「学習課題」の工夫 → より高い判断力の育成へ

多様な考えから適切な解法を導き出すための時間や場の設定

班での話し合い活動・意見交流 → 深い学びへ

ホワイトボードでの活用 → 授業の見通しを持つ

ALTとの効果的なTT授業の展開